

と
ひ

よこはま市民型録(カタログ)

横浜のまちに広がる三二七万人の生活と意見

ひとくちに横浜市民といっても、その暮らしや意識はさまざまである。仕事の違い、歳の違い、性別の違いなど、それぞれのよって立つ場所が違えば当然、それぞれが過ごす時間の中身が違い、見えるまちの姿も変わってくる。

そこで、ここでは、横浜市が平成四年に実施した「市民生活行動調査」をもとに、市民の持つ多様な属性が、それぞれの市民の行動や意識にどんな影響を与え、どんな違いを生んでいるかを明らかにしてみたいと思う。それぞれの目を通して見えてくるのは、どんな横浜だろうか。

多様な市民のつくる横浜

調査の結果、確認できたことは、やはり年齢、性別、既婚・未婚、就労形態の違いなどによって、市民の持つ意識にもさまざまな違いが生まれていることである。中でも大きかったのは、世代による差であろう。とりわけ高齢者その他の世代との間には、地域への関心の深さにおいて顕著な違いがみられた。地域で過ごす時間の長さが、市民意識度※(自分が市民であるという意識)に少なからぬ影響を与えていることは確かだろう。

さらに社会人においては、同じ世代でも性別によってその行動や意識の違いが現れており、また男性、女性ともに、仕事に関わる事柄によって、それぞれ違った属性を生んでいることも明らかになった。

男性の場合は、世代や既婚・未婚による違いはあまりはつきりしない。むしろ、市内に勤め先があるか市外に通勤しているかが、行動や意識を分けるカギとなっている。一方、女性は世代、既婚・未婚、仕事の有無など、さまざまな属性によって、その生活行動はいくつにも分かれてしまう。ことに女性の場合は「結婚」がしばしばそのライフスタイルを決定し、その生活行動や意識に多大な影響を与えている事実は無視できない。

この違いは、男性は結婚しても公私ともにあまり影響を受けないのに対し、女性はこまごました家事や育児を引き受けざるを得なくなり、そのため就労を中断したり、家事と仕事の「両立」を図るため一人倍の努

力を強いられるようになるからであろう。そして、全体に男性より女性の方が文化活動や地域活動に熱心であり、横浜のまちをよく活用しているという傾向も現われている。

このように、市民の姿もまちへの関心もひとつには括れないが、こうした多様性が横浜のまちに活気を与えているともいえるのである。

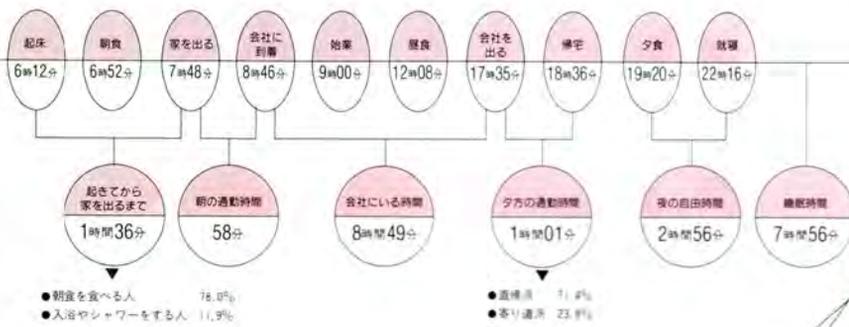
そこで、前節では横浜市民に共通するライフスタイルを探ったが、次ページからは市民の多様な姿を紹介しながら、横浜のいまに迫ってみることにしよう。

※市民意識度

「市民生活行動調査」の中で行った「あなたは自分が横浜市民であることを意識していますか」という質問に対する五つの答え、「強く感じている」「少しは感じている」「どちらともいえない」「あまり感じない」「全く感じない」に、それぞれ数値を与え、平均評価を算出したもの。最高は一〇〇度で、度数が高いほど市民という意識を強く感じていることを表している。

地域への関心は一番、活動もじつくり前向きに

勤めを持つ高齢者



市民意識度 **73** 度

生活意識・行動の特色

- ファッションの流行への関心は低い
- 持ち家比率が高い
- 教養を高める学習やボランティア活動への参加率が高い

横浜の街への関心・期待

- 道路・下水道の充実に期待
- 横浜に関する報道に関心が高い

生活意識・行動の特色

- 料理は素材にこだわる
- 持ち家比率が高い
- 地域活動への参加率も今後の参加意欲も高い

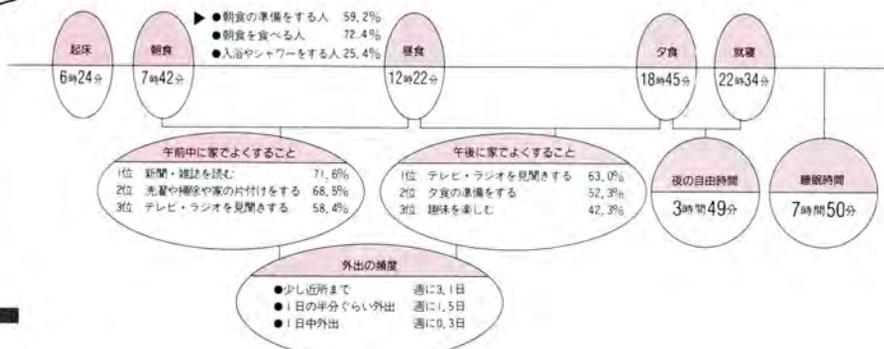
横浜の街への関心・期待

- 医療、福祉の充実に期待
- 横浜に関する報道に関心が高い

家庭にいる高齢者



市民意識度 **63** 度



平均寿命が八十歳を超えたいま、六十代を中心に仕事を持つ高齢者は横浜市内でも増えており、その生活は他の世代の通勤・通学者と大差はない。

一方、特に勤めを持たずに家庭で日々を過ごしている高齢者は、朝はゆっくりと起き、趣味やテレビ・ラジオを楽しむという時間にゆとりのある生活を送っているようだ。

このように、同じ高齢者でも日常生活行動は多少異なっているが、いずれも長年、横浜に住み暮らしてきた人が多いためか、どちらも地域との関わりは深く、人的ネットワークも地域が中心となっている。

したがって、地域活動に取り組んでいる人の割合も、他の世代より高いのが大きな特徴だ。

スポーツ・文化活動への取り組み状況を見てみると、スポーツ活動への関心は低いですが、「美術館・博物館に行く」「映画・演劇に行く」「カルチャーセンター等に行く」といった、文化活動への参加意欲は高い。

市民意識度は全体に高いが、家庭にいる人よりも、勤めを持つ人の方がやや高くなっている。

私のためにまちはある、なんでもやりたい欲張り派

横浜で働く独身女性



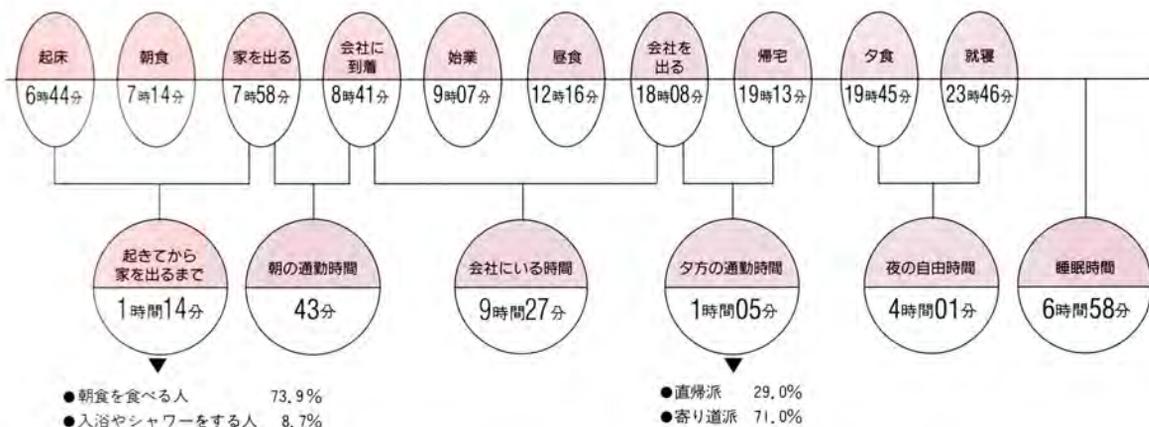
生活意識・行動の特色

- ファッションには関心があり、お金もかけている
- 住まいは自然環境よりも利便性を重視
- 仕事よりも個人の生活を重視したい
- 教養を高める学習や勉強に関心が高い

横浜の街への関心・期待

- ボランティア活動への興味・関心が高い
- スポーツ施設、文化施設の充実を望んでいる
- 気になる横浜の報道記事は「スポーツ・レジャー・祭」
- 横浜に住み続けたいのは「街のイメージがよいから」

市民意識度 **46.5** 度



横浜で働く独身女性は、二十代が中心。横浜での居住年数が平均二〇・六年で、両親と同居している人が八割に達している。つまり横浜で生まれ育ち、そのまま市内に就職した人たちが多いということだ。

この層のライフスタイルの特徴は、自由時間行動に非常に積極的に取り組んでいること。

通勤帰りや帰宅後などに、趣味やスポーツ、ショッピングや飲酒、カラオケなど、多彩な活動を展開している。特に教養を高める学習など、自己実現のための活動への参加意欲が強く、このためかボランティア活動への興味・関心も高い。

生活の中心は横浜市内だが、自宅周辺での生活行動は少なく、職場周辺や横浜の都心部を利用することが多い。したがって、地域への関心は低く、横浜に関するニュースでも「イベント」や「レジャー」に関するものに興味を持つ程度。

横浜のまちのイメージは気に入っているが、市民意識度は男性よりやや低い四六・五度にとどまった。

まちの外からまちを見る、プライベート重視の行動派

市外で働く独身女性



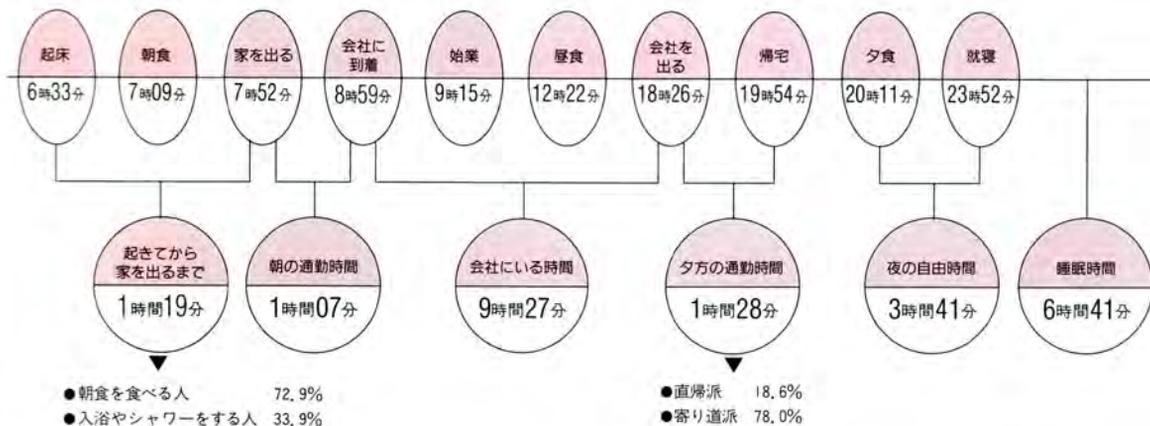
市民意識度 **39.5** 度

生活意識・行動の特色

- ファッションの流行への関心が高い
- 新製品を見ると衝動買いをする
- コンビニエンス・ストアをよく利用
- 仕事よりも個人の生活を重視したい
- 教養を高める学習や研究活動に取り組む人が多い
- 地域活動への参加意欲は高い

横浜の街への関心・期待

- 道路・下水道の充実に期待
- スポーツ施設の充実に期待
- 交通の利便性やまちの景観アップに期待
- 東京に近いことを評価



市外で働く独身女性もやはり二十代が中心だが、ほぼ三人に一人がひとり暮らし。そのためか、会社が終わった後に寄り道をする人は七八%と、全市民中でもっとも高くなっている。

生活意識の面では、市内で働く独身女性と同様に、プライベートライフを重視し、自己実現への意欲が高い。スポーツ施設が充実することを期待している人が多く、活動的な傾向がうかがわれる。

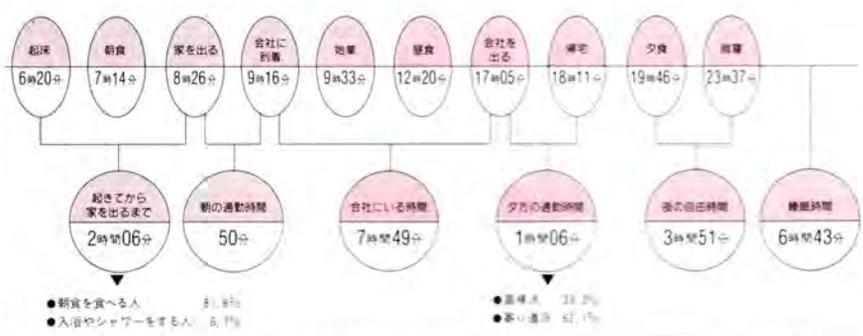
こうした高い自己実現への意欲を行動に移す場所は、通勤の関係からか市外のまちが多い。平日だけでなく、休日でも市外に出かけることが多いため、住んでいるまちで過ごす時間は少ない。しかし、地域への関心がないわけではなく、地域活動や住まい周辺の環境整備への関心は高い。

東京と比較するためだろうか、横浜のまちへの期待としては、道路や交通・まちの景観といった、全体的な都市環境整備を求めるものとなっている。

市民意識度が三九・五度と低いのは、やはり横浜で過ごす時間が少ないからだろう。

職住のネットワークをフル活用、仕事で地域で大忙し

住んでいる区外で働く
既婚女性



市民意識度 **52.5** 度

生活意識・行動の特色

- ファッションの流行への関心が高い
- 夕食は家族そろって食べたい
- 収入が減っても労働時間は短い方がよい。
- 教養を高める学習活動への参加意欲が高い
- スポーツ活動への参加率は低いが、参加意欲は高い

横浜の街への関心・期待

- 文化施設の充実への期待が大きい
- 気になる横浜のニュースは「国際的イベント」

生活意識・行動の特色

- 起床時刻は市民の中で最も早い
- ファッションの流行への関心は高い
- 仕事は収入の手段と割り切っている
- 教養を高める学習活動への参加意欲は高い
- リサイクル活動への参加率が高い
- お祭りや地域行事への参加率が高い

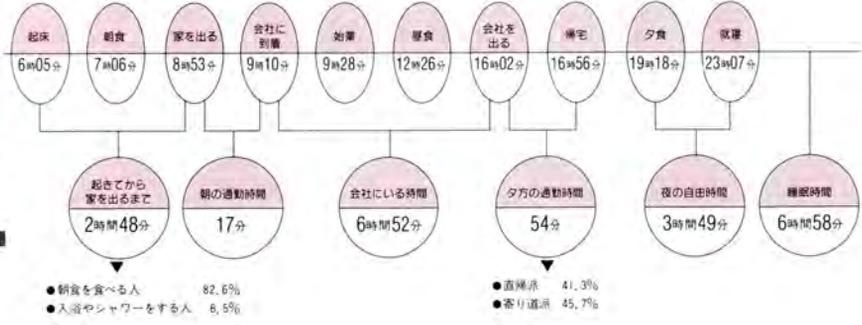
横浜の街への関心・期待

- 雇用機会の充実への期待が大きい
- 気になる横浜のニュースは「教育・育児」と「環境・景観」、「国際イベント」など多岐にわたる

住んでいる
区内で働く既婚女性



市民意識度 **57** 度



結婚後も働き続ける女性が増えている。女性の場合、「結婚」がライフスタイルに与える影響は大きく、今回の調査でも、働く既婚女性は自宅と職場という二つの生活拠点を持つことによって、生活時間や人間関係に他と違った側面を見せていることが明らかであった。

例えば、睡眠時間は全市民平均に比較して短く、食事の支度、掃除などの家事も家族の中でいちばん負担している。そこで、家事と仕事を両立させるため、忙しい毎日を送らざるを得ないのがこの層である。

しかし、その一方で、教養を高める学習活動への参加意欲は高く、忙しいながらも積極的な毎日を送っているようすがうかがえる。

また、ご近所づきあいやPTAなど地域との関わりも深く、職場でも独自のネットワークを持っており、人間関係は幅広い。

その結果、生活行動も多彩で、それに合わせて利用するまちも、自宅周辺から職場周辺までさまざまに広がっている。

ところで同じ働く既婚女性でも、自分の住んでいる区内に勤めている人と市外への通勤も含め区外に勤めている人とは、その生活行動やまちとの関わり方は異なっている。

自区内で働いている人は区外で働く人に比べて時間にゆとりがあり、また区内で行動する時間が長いだけに地域との関わりは深い。また人間関係においても、自区内で働く人が近所の人たちとのつきあいを中心としているのに対し、自区外で働く人は仕事関係の人とのつきあいが多く、という結果となっている。

暮らしの場を拠点にして、積極的に行動の輪を拡大

住んでいる区内でほとんどの生活行動を行う主婦



市民意識度 **42.5** 度

生活意識・行動の特色

- チラシを見てから買い物に行く
- 保存食や日用品はまとめ買いをする
- 母親クラブやボランティア活動への参加意欲が高い
- 近所の人とのつきあいが多い

横浜の街への関心・期待

- 道路・下水道の充実に期待
- 交通の安全性への期待が大
- 気になる横浜のニュースは「教育・育児」

生活意識・行動の特色

- 平日の日中はウィンドウショッピングや買い物によく出かける
- 近所の友だちとよく話をする
- ファッションの流行には関心が高い
- 部屋の模様替えをするのが好き
- ボランティア活動やリサイクル活動にも関心が高い
- スポーツ活動への参加率が高い

横浜の街への関心・期待

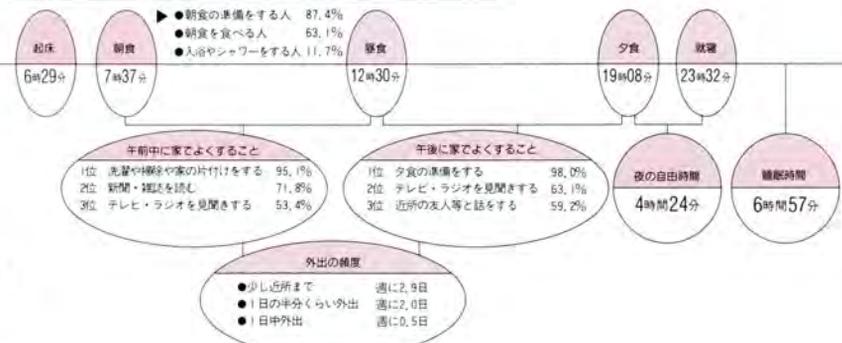
- 文化施設と買い物の利便性への期待が大
- 気になる横浜のニュースは「教育・育児」



住んでいる区外での生活行動が多い主婦



市民意識度 **43** 度



「子育て」や「家事」を通じて自宅周辺（地域）に強いネットワークを持ち、住んでいるまちとの結びつきが強いのが主婦層である。こうした主婦の生活行動には、二つの傾向が見られる。

一つは、買い物やスポーツ・文化活動、地域活動などの生活行動を自分の住んでいる区内で行うことの多い主婦。もう一つは、区内を越えて他区や市外に出かけていくことの多い主婦だ。

前者は三十代に多く、この年代は乳幼児期の子どもを抱え、自分の自由な時間をつくるのが難しく、外出したくともできずに、家庭や地域の中だけで過ごすことを余儀なくされている人が多い。

しかし、一方で母親クラブやボランティア活動への関心が高く、そうした地域との関係を積極的に生かし、ネットワークを広げているようすがうかがえる。

後者は四十代〜五十代に多く、子育ても一段落し、やっと手に入れた自由時間を積極的に活用しているようだが、こうした行動の積極性は、ファッションや食品への関心の高さにもつながっており、行動圏の広さが好奇心や情報感度を高めているといえる。

前者のまちへの期待は、道路や下水道といった生活環境の整備で、それだけ身近な生活の場としてまちを捉えていることがうかがえる。後者は、文化施設の整備や買い物の利便性への期待を示しており、対照的である。

職住近接のゆとり生活、地域への関心はいまいち

横浜で働く男性



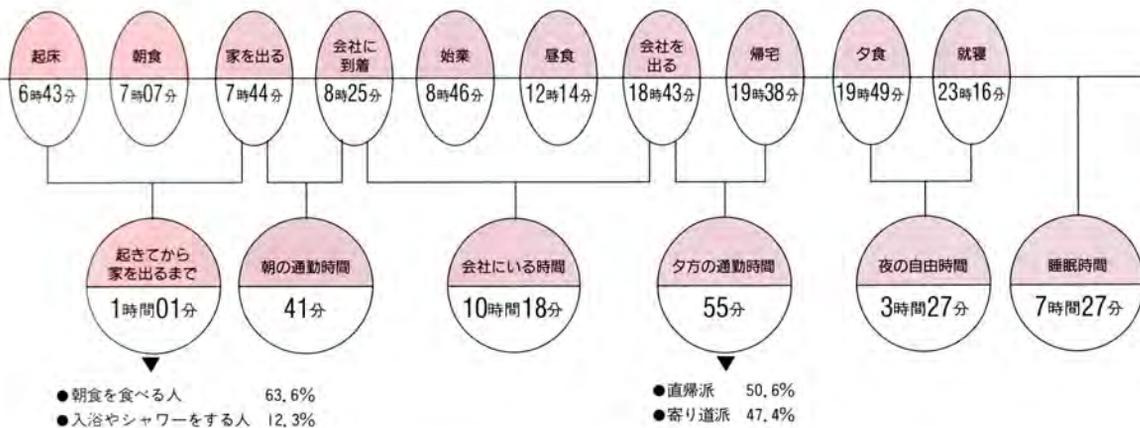
横浜の街への関心・期待

- 住宅の整備や下水道の充実に期待
- 気になる報道記事は「横浜の産業・経済動向」
- 横浜に住み続けたいのは「通勤に便利だから」

生活意識・行動の特色

- ファッションの流行に関心は薄い
- コンビニエンス・ストアをよく利用する
- スポーツが好きで「ゴルフ」「野球」をよくする

市民意識度 **48.5** 度



自分の住んでいるまちから横浜市内の会社や仕事場に通勤しているサラリーマンは、終業後、まっすぐ帰宅すれば午後七時半頃には帰れるから、家族で夕食を囲むことが可能だ。そのためだろうか、そのまま帰宅する「直帰派」が「寄り道派」を上回っている。たまに「寄り道」しても、会社の仲間と一杯ということが多い。

市外への通勤者と比べると、朝夕の通勤時間は三十分も短く、この差が出勤前、終業後の自由時間の長さとなって現れている。朝はゆっくり朝食をとり、夜は家族との団欒を楽しむ。全体に、そんなゆとりの感じられる暮らしが浮かんでくる。

一日のほとんどを横浜市内で過ごしているが、平日には職場周辺のまちを利用し、また休日は自宅周辺のまちに家族とともに買い物に出かける程度で、自分が住むところ以外のまちについてはあまり知らない。

自宅と職場を往復する毎日のためか、近所の人とのつきあいや、地域活動への取り組みは少ない。

横浜のまちへの期待は、住宅関連の充実。市民意識度は四八・五度とまずまずの高さを示している。

たとえ職場は市外でも、地域参加には意欲的

市外で働く男性



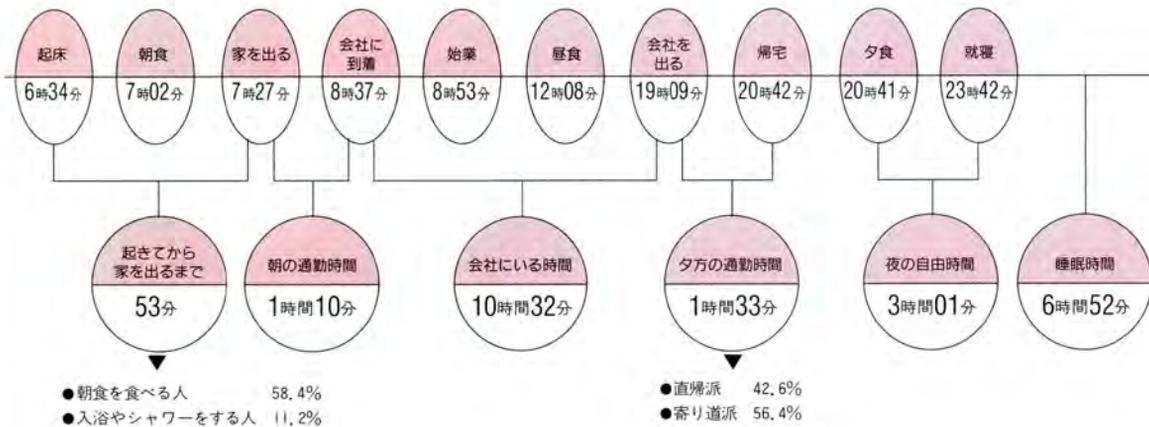
市民意識度 **38** 度

生活意識・行動の特色

- ニュータウン型住宅地に住む人が多い
- 地域活動にいまは参加していないが、参加意欲は高い
- ファッショセンセンスに自信あり
- 持ち家への欲求が強い
- コンビニエンス・ストアをよく利用する
- よくするスポーツは「ゴルフ」「テニス」

横浜の街への関心・期待

- 気になる横浜のニュースは「産業・経済関係」
- 横浜の自然環境を評価



市外に通勤するサラリーマンは、一日のうち十三時間以上を、市外（通勤を一部含む）で過ごしている計算になり、睡眠など自宅にいる時間を除くと、生活行動の中心はほとんど市外にある。したがって、スポーツや文化活動などで利用したくとも、横浜のまちを利用する時間がないのが現実だろう。

通勤時間が長いいためか、帰宅前に会社の同僚とちょっと寄り道という人が半数以上を占めているが、この場合も横浜のまちを利用することはほとんどなさそうである。夕食時間の遅さもその後の自由時間を圧迫しており、家にはまさに寝に帰るだけになってしまっている人が多いようだ。

新しく開けたニュータウン型住宅地このタイプの人が多く、全体に横浜のまちとの接点は少ない。また、居住歴平均も十六年と浅いこともあって、やはり横浜市民意識度は三八度と市民の中では一番低い。

しかし、注目されるのは、地域活動への関心（参加意欲）が高いこと。いまは時間がないためなかなか取り組めないが、地域の人との交流やまちづくりなどにいずれは関わりたいと思っており、今後、地域参加へのその潜在的な意欲には期待できそうだ。

近所重視のヨコハマ派は、緑重視の環境派

横浜自営業



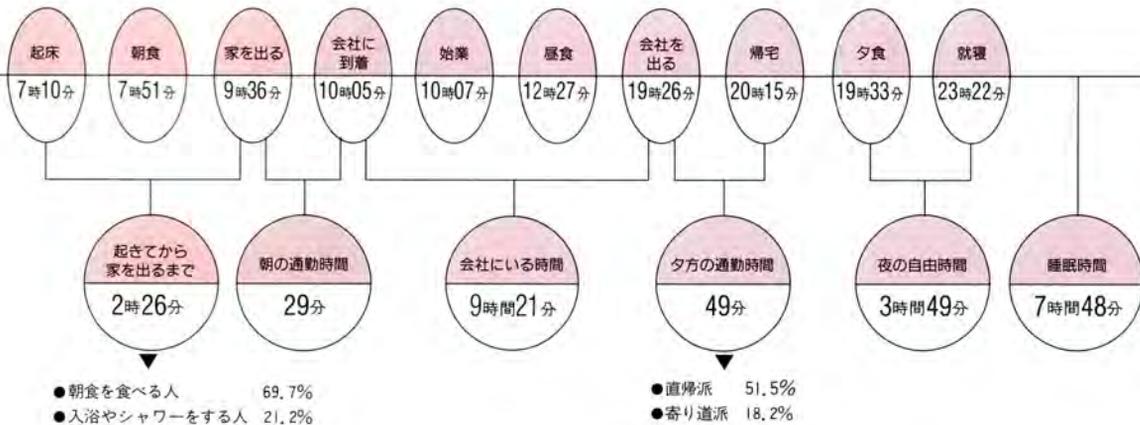
市民意識度 **74** 度

生活意識・行動の特色

- ファッションセンスに自信あり
- 生鮮食品は多少高くても鮮度の良いものを
- 寝るのはやっぱり畳に布団が一番
- 住まいは便利さよりも自然環境を重視
- 仕事は収入の手段だけではないと考えている

横浜の街への関心・期待

- 横浜のニュースに関心が高く、気になるニュースは「市議会・行政」「産業・経済動向」
- 自然（緑）の豊かな横浜のまちづくりに期待



自宅が店舗（仕事場）という人も多いためか、通勤時間は短く、自宅周辺や自分の住んでいるまち（区内）を拠点とした生活行動を展開している。

仕事から地域の人々との接触機会や関係が強く、地域に根ざした人的ネットワークを形成しているが、逆に生活行動圏の広がり小さいため、東京や市内の他の地域やまちのようすにはあまり詳しくないという面も持っている。

女性と並んで地域活動への取り組み意欲は強いが、実際に取り組んでいる人の比率はまだ低い。

横浜のまちとの関わりが深いため、横浜についてのニュースは気になるようで、特に政治や経済といった硬派の情報への関心が高い。また住んでいるまちについては、居住歴が長く、下町に住む人が多いためか、利便性よりも緑などの自然環境を気にしている。

今後つきあいを大切にしていきたい人のトップは、やはり「近所の人たち」。東京にはない独自の個性を發揮してもらいたいと、将来の横浜への夢を語っている。

市民の中で、横浜市民意識度はもっとも高い。

なお、アンケート回答者の中に女性の自営・自由業者はいなかった。

行動は思い切り自由、意外に高い市民意識

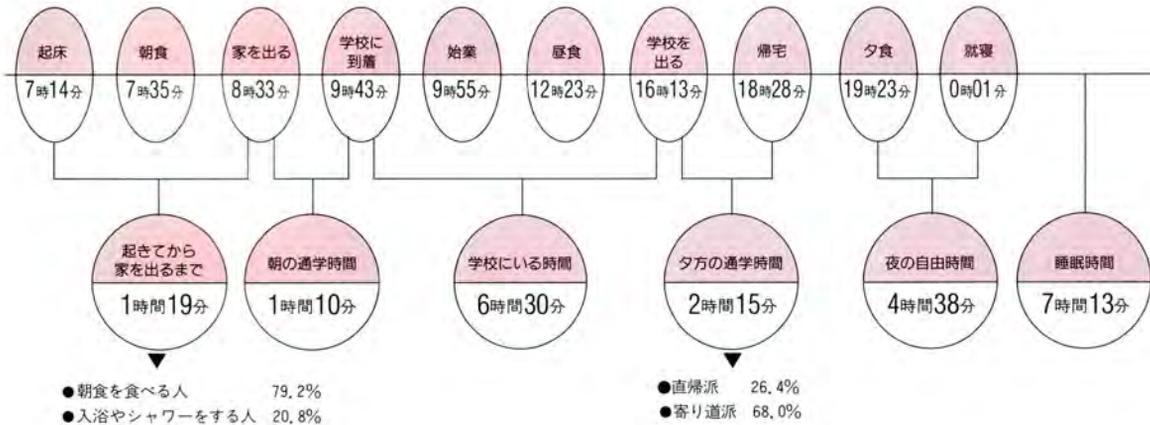
横浜ヤング(大学生・専門学校生)



- 横浜の街への関心・期待**
- 福祉やボランティア活動が充実するとい
 - これからの横浜には、まちの美しさと遊び場の充実を期待
 - 横浜のニュースで気になるのはスポーツやレジャーに関するもの
 - 横浜のイメージが好き

- 生活意識・行動の特色**
- ファッションセンスに自信あり
 - 住居は環境よりも便利さを重視
 - 仕事よりも個人の生活を重視したい
 - 国際交流活動に参加したい
 - 芸術、音楽などの文化活動に参加したい
 - お祭りや地域行事に参加したい

市民意識度 **60.5** 度



横浜市民の中で、もっとも夜型(夜ふかし、朝寝坊)のライフスタイルを送っているのが、大学生や専門学校生といったヤング層だ。平均起床時刻も就寝時刻も市民の中でもっとも遅く、他の市民とはやや違った生活行動を展開している。

時間の自由度が高いため、自由時間行動をもっとも活発に行っており、スポーツや文化活動、アルバイト、友人とのコミュニケーション活動など、その内容も多彩だ。こうした活動を市域を越えた幅広い行動圏で展開しているが、そのため自宅周辺の人的ネットワークや地域活動への参加などにおいて、地域との関係は薄い。

生活意識では、プライベートライフを大切にしたいという考え方が強く、帰宅後の自由時間には、自分の部屋で趣味やCD、ビデオを楽しむことが多い。

横浜のまちに対しては「イメージが好きだ」としており、今後のまちへの期待でもまちの美しさや文化性、福祉といった理想的なまちづくりに関心を示している。

市民意識度は意外にも六〇・五度と高い水準にある。

まちは広く使っているが、地域との接点はまだ薄い

横浜ティーンズ(高校生)



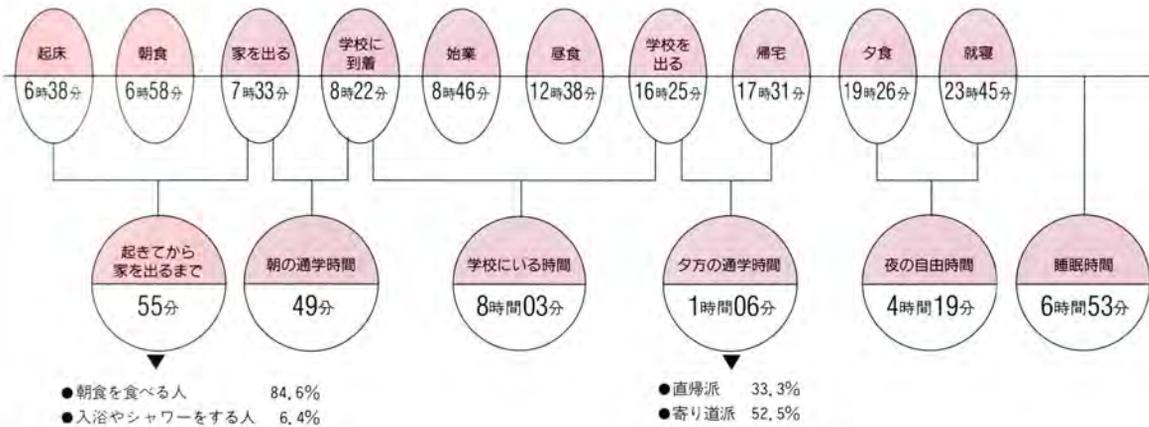
市民意識度 **49.5** 度

生活意識・行動の特色

- 郊外よりも都心部で生活したい
- 新製食品を見ると衝動買いする
- コンビニエンス・ストアをよく利用する
- 国際交流活動に参加したい
- お祭りや地域行事に参加したい

横浜の街への関心・期待

- もっと国際交流が活発になるといい
- 地域の行事や催し物が盛んになるといい
- 住みよい横浜のために充実させたいのは、自然が豊かになること
- 遊べる場所がたくさんあることが大切



横浜のティーンズ(高校生)は、起きてからの十時間ほどは通学や学校で過ごし、この時間帯は働いている人以上に自由度が低い。そのためか、学校から家に帰るまでの時間に寄り道することが多い。その内容は、ウインドウショッピングや友達とのおしゃべり。

こうした行動は、学校周辺や市内の都心部などで行われており、ティーンズは友人とともに、意外に広範囲に横浜のまちを利用している。逆に帰宅後は自宅、特に自分の部屋にこもることが多く、近所の人や地域との接点は少ない。

休日には、市域を越えて東京などへ買い物や遊びに行くことが多く、そのため平日同様、地域にいることは少ない。コンビニエンス・ストアなどを除いては、地元のみちを利用することもあまりないようだ。

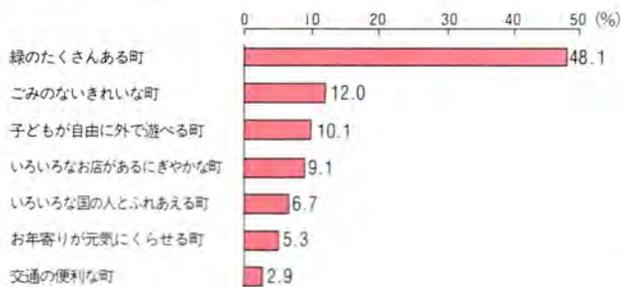
市民意識度は四九・五度とやや低いが、国際交流活動や地域行事に関心が高く、自然環境を重視するエコロジストの側面も持っている。だから、「水と緑と豊かな潤いのある街」を次代に伝えたい横浜の姿としている。

遊び場所は自分の部屋、緑のあるまちが理想

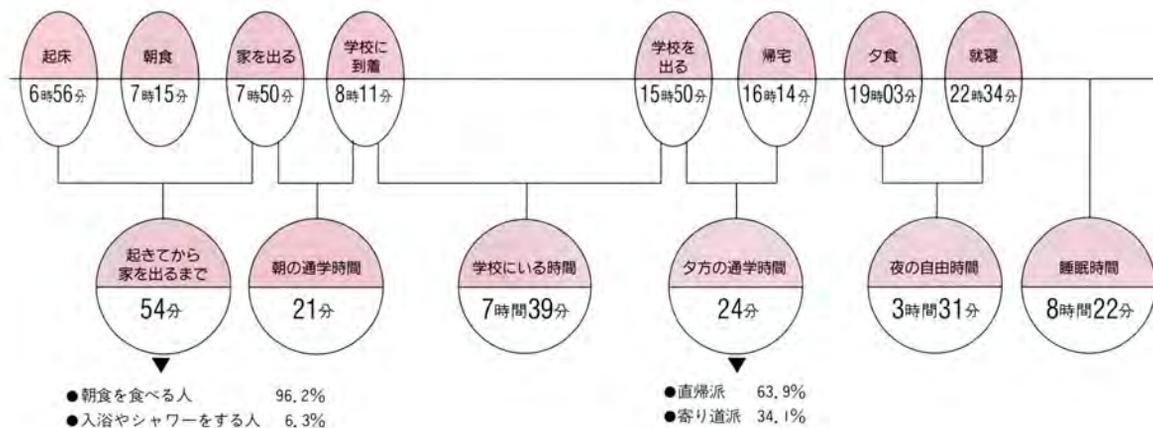
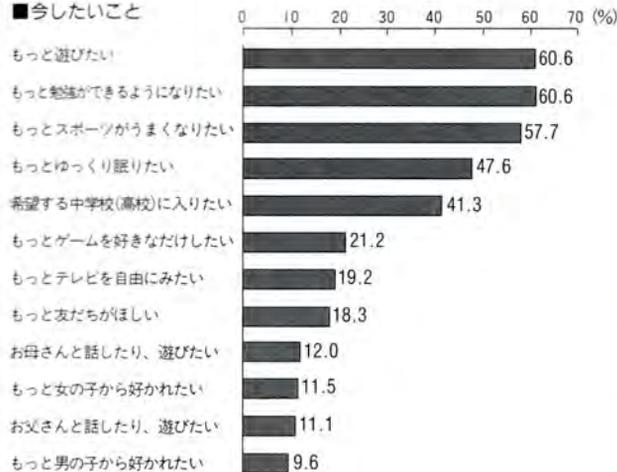
横浜キッズ(小、中学生)



■将来の横浜の姿



■今したいこと



横浜の子どもたちのうちで、学習塾に通っているのはほぼ半数。塾の授業は週に三日、一回に平均二時間にも達している。ふだんはクラスの友だちと寄り道をしながら帰り、夕食は午後七時過ぎだ。塾のある日は一人でまっすぐ家に帰り、夕食は七時過ぎになる。横浜の子どもたちの毎日の生活に、学習塾は大きな影響を及ぼしているようだ。

塾のない日の子どもたちは、一度帰宅した後で友だちと遊んでいるが、遊び場所のトップが自分の家か友だちの家というのは、家の中の遊びが主流となっていることを表わしている。

夜の過ごし方を見ると、両親と遊んだり兄弟姉妹と遊ぶと答えた子どもたちはやはり少なく、テレビやマンガ、ゲームといった、自分の部屋で一人で楽しめるもので夜を過ごしている子が多いようだ。さらに、「いましたいことについて」「もっとゆっくり眠りたい」と答えた子どもが五割近くに上り、日頃の塾や習い事の疲れを感じさせる結果となっている。

横浜の都市化が進む中で、子どもたちが描く将来の横浜の姿は「緑がたくさんある街」。子どもたちの、環境に対する関心は意外に高く、その視線は厳しいようだ。